

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく所に理念が掲げられており常に頭に入れ、理念に沿ったケアにつなげている。	理念はパンフや入居者の自筆による書が額に入り見やすい場所に飾られており、ミーティング時などにも読み合わせ(復唱)をするなど、共有化に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流、地域行事への参加、近隣の理髪店の利用、日頃の散歩時の挨拶等を通じて交流している。	地域の自治会に入り、活動へも積極的に参加し関係を大切にしている。恒例の夏祭り「上田わっしょい」では、屋台を出し楽しい交流が広がったとの報告があった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通所利用の方があれば、いつでも対応できるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開かれ、現状報告や委員の方から御意見を頂きサービス向上に活かしている。	2か月に1回定期開催され、事業報告と事業計画等について意見を聞き活動へ反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方に運営推進会議に出席頂いたり、行事の際には御参加いただいている。	市からは運営推進会議の出席のほか、ホームの行事へも参加してもらっている。今年度は協議会の事例発表会へも参加協力を得、若い職員の貴重な経験となったことを伺った。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルを掲げ実践につなげるべく研修を行っている。玄関の施錠についてはご家族の了解を得ている。	マニュアルを掲げ、外部研修の内容をミーティングや業務日誌・申し送りノート等で共有化に努めている。玄関の施錠については、職員会・家族会・運営推進会議等で協議し安全優先で施錠を確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを掲げ実践につなげるべく研修を行っている。又、職員同士コミュニケーションをとりストレスのない介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して職場内で研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族が納得されるまで説明を行い御理解いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、御家族、管理者、職員が意見交換している。また、家族会の正・副会長が運営推進委員となり外部の会議に参加している。	家族会は9週に1回、休日を利用して開催され、職員も全員参加(手当有)で、全体会・小グループ別・家族だけの話し合いを持つなど、工夫して意見の汲み取りに努めている。また、個人面談も行っている。欠席の家族への報告も丁寧に行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングに管理者が参加し、職員の意見・発言の場を設けている。	毎月1回のミーティングの中で職員の意見を言える場があるが、日常業務の中でも気軽に意見が言える(提案)環境にある。管理者も職員の立場の理解やいつでも意見を聞くように心がけ、職員の気づきを待つ姿勢が窺えた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日、顔を出しており、職員個々について把握していると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに研修の機会を設け参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会やグループホーム部会への参加を通じてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	散歩や入浴時など、ゆったりとした時間の中で傾聴・観察する時間を多く持ち、ミーティングの場で話し合い統一したケアに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ご家族のお話をお聞きし、気持ちを受け止める様、努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族と、サービス計画者、担当との話し合いを通じて御家族の要望などを探る。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物干しなど、共に生活していく中で、職員の知らない事を教えて頂いたり、助けていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見やクリスマス会など四季の行事に参加して頂き、常に感謝の気持ちをお伝えし協力いただいている。又、希望される御家族には1日の様子をケース記録に沿い細かくお伝えしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人については、こちらから働きかけはしていないが、希望があれば支援する体制にある。	高齢化や重度化の中で馴染みの関係も変化してきているが、これまでの関係を大切にしながら、一方で新たな関係作りにも努めている。(直販所での買い物やお茶交流、隣接事業所への立ち寄り等)	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など利用者同士が最も安心して関わり合い、支えあえる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに伺ったり、行事への参加をお願いしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の時間の中で自由に過ごして頂いている。その中で利用者のお話を傾聴し、様子を観察し話し合いを持っている。	アセスメント時にも生活歴や好き嫌いシート等で情報を把握しケア計画へ反映しているが、日常生活の中で入居者の話(言葉)やしぐさなどを観察、記録に残し、気づきを大切にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から伺ったり、家族会や面会でのご家族との情報交換から今までの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をケース記録に記入し、心身状態等の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当が介護計画を作成しご家族の了解を頂いた後、職員間で話し合いを持つ。必要に応じてご家族との個人面談を設けている。	月1回のミーティングの中で、気づきシート(見直しシート)を活用し、計画の話し合いや見直しを行っている。個々の意見が出しやすい、聞いてもらえる(職員の声)というチームの雰囲気やホームの雰囲気へ反映している様子が窺えた。	入居者の語られる「言葉」や何気ないしぐさ等を機敏に捉え、ありのままの姿から学ぶ姿勢は、素晴らしいことです。今後センター方式の学習も深めて、記録物の充実と若手の育成を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・業務日誌に記入し職員全体が共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画に基づき個別ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な床屋さんの来訪や地域の行事を通じて暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されている為、ほとんどの方がこちらを利用し適切な医療支援が行われている。又、かかりつけ医がある方はそちらを受診いただいている。	かかりつけ医は家族の希望を尊重しているが、病院が隣接ということで、ほとんどの方が隣接の医療を希望されており、適切な医療管理がされている。隣接の病院にない科の受診の時は、適宜受診支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しておる他、月1回の訪問看護や隣接している病院との連携も取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接している病院との間でサマリーに沿って対応できる関係がなされている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの支援はご本人・ご家族の希望に沿うよう取り組んでいる。また隣接している病院で対応できる体制が整っている。	重度化や終末期の対応に向けては、個々のケースで確認はとっているが、隣接の病院での療養希望が多い。病院での体制は整っている。ホームでの看とりは実例が無い。引き続き検討課題ではある旨伺った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院での研修や職場内での研修が行われている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行い、全職員が周知徹底を図る。又、防災訓練の際には地域の方々にも参加して頂きご協力を得ている。	スプリンクラーの設置はされている。地域の住民の参加を得た訓練と、夜間の職員のみ緊急連絡訓練を行ない、振り返りをして次回への改善点が得られた様子が窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた対応している。又、トイレのカーテン、入浴時の対応等、プライバシーに配慮した支援をしている。	排泄支援は周囲へ配慮しながら、時間誘導のみでなく入居者の尿意を察知する努力、さりげない対応に心がけている様子が窺えた。入浴は個浴を基本に状況によっては、他の入居者の協力を得て入浴できることもあり、プライバシーには十分配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に過ごして頂いている。職員は利用者が思いや希望を表したりできる様、信頼関係を深める努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、希望に沿った支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時の洋服選びなどご自分で出来る方はご自分で、出来ない方は希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や料理を工夫している。その際、食事の準備や後片付けと一緒にしている。	各フロアで作った献立表を、管理栄養士に点検・アドバイスをもらっている。食材の購入、調理、片付け等入居者の能力に応じて一緒に行う姿が窺えた。買い物レシートをゲーム感覚で品物と突き合わせたり、外食を毎月1回行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス等については管理栄養士と相談している。水分量の確保については特に気を付けて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導や口腔ケアの研修等に基づき、毎食後口腔ケアを行っている。義歯は毎晩消毒して清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながらのトイレ誘導等、個々に対応した支援を行い、可能な限りトイレでの排泄・排泄の自立に取り組んでいる。	時間誘導から個々のパターンや特徴をつかみ、尿意が分かるようになる取り組みが窺えた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材での料理や水分補給に気を配り、又、体操等をして頂いている。必要な方には排便表を作成し支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールを公平に組み入浴を楽しんで頂いている。また、本人の希望に沿った支援をしている。	体調や気持、職員体制など多方面から配慮し、午後3時過ぎを軸に週3回を目標に行っているが、夜間入浴希望や拒否の方は時間をずらして対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の起床時、無理に起こすことなくご本人意思を尊重している。お昼寝も自由にしていただいている。夜間はその方の生活リズムを把握したうえで、明るさや温度等にも気を配っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録にファイルされており、職員が常に把握し、適切な服用の支援と症状の変化等に気を配っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会など生活歴に応じた楽しみ、家事の手伝いや花壇の草取り等の役割、散歩・外出などの気分転換を実践している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただく為の外出や外食を企画実行している。また、ご家族に散歩に連れ出して頂いたり、散歩の際には地域の人々との挨拶や声掛けなど交流を図っている。	毎日の散歩の他月1回の外食、季節ごとの行事等積極的に取り組んでいる。また家族の来訪時には家族との時間を大切にしている。ホーム便りには、入居者の笑顔いっぱいの写真が載せられていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、家族の了解のもと職員が管理しご家族に報告している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や家族会のお知らせなど書ける方には書いて頂いている。また、必要に応じて電話を掛ける体制をとっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、ソファを置くなど家庭的な雰囲気作りに努めている。また、テレビや音楽の際には音・明るさに気を配り、温度調節を行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用スペース(居間兼食堂)は明るい色彩のクロス(壁・テーブル)で、手作りの作品や季節の花などが飾られ、やわらかい落ち着いた雰囲気を窺わせた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士がお話し出来る様な席の配置やゆったり過ごせるようソファを配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やお花を飾ったり、テレビを置いたり、本人、ご家族と相談の上、馴染みの物置いている。	入居者の状況(希望も含む)に合わせて布団・ベッド対応となっており、家具調度品も個々の要望等を配慮してある。居室の入り口には花の図柄入りの名前が工夫され入居者も理解しやすい様子が窺えた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置し段差をなくし安全に歩行できる工夫をしている。又、居室の掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い拭きなどできる環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容